

(様式1)

令和5年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立第三吾嬬小学校
校長名	川中子 登志雄

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">標準スコア52.0以上を達成した学年教科は、17教科中6教科であった。また、17教科中14教科は、標準スコア50.0以上を達成した。国語と算数に関しては、全学年、標準スコア50.0以上を達成することができた。観点別全51項目のうち、目標値と全国平均を超えたのは、37項目であった。	<ul style="list-style-type: none">標準スコアが50.0に達していない学年教科は、4年社会(49.0)と理科(49.9)、5年理科(49.5)で全て1ポイント以内ではあった。観点別で目標値及び全国平均に到達しなかったのは、4年社会の「知識・技能」と理科の「主体的に学習に取り組む態度」、5年理科の「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」、6年英語の「主体的に学習に取り組む態度」であった。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">icheckの概要1のにおいて、標準スコア52.0以上であった学年項目は、1項目から5項目に増加した。また、標準スコア50.0以上は、12項目から16項目に増加した。リスク管理に関する項目は、全学年において標準スコア50.0以上であった。	<ul style="list-style-type: none">「学習習慣・意欲」の項目は、全学年において標準スコア50.0以下であった。「愛されていますか」という項目は、昨年度よりスコアが低くなっている学年が多い。「自己肯定感」の項目は、昨年度に引き続き、標準スコアが低く、2～5年は、50.0以下である。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">全国学力学習状況調査での平均正答率は、国語が71% (全国平均比+3.8)、算数が70% (+7.5)であり、いずれも都と全国の平均正答率を上回った。また、全領域観点においても、都と全国よりも上回った。	<ul style="list-style-type: none">全国学力学習状況調査の国語において、やや課題がある。まず、「短答式」の問題形式において、都と全国ともに平均正答率を下回った(都-3.9、全国-0.2)。また、「知識・技能」の観点において、都よりも平均正答率を0.3下回った。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 学力向上部を中心にした組織的な「振り返り学習」の徹底

- ・ 学力向上部が策定する「学力向上計画」に基づいて、適切に「ふりかえり期間」の取組内容を実施する。今年度3月の取組では、理科の振り返りを重点とする。
- ・ 「Web 支援システム」の情報を活用し、適切な「ふりかえりシート」を厳選して家庭学習等の課題として取り組ませるとともに、授業初めの5分間で解説し、定着を図る。
- ・ Teams を活用し、「すみ研チャンネル」を設置し、すみだ教育研究所からの情報を適切に周知・活用する。また「学力向上チャンネル」で、学力向上の取組について共通理解を図る。
- ・ 1月に全学年で学力調査を実施し、その結果を分析し、3月の「学習ふりかえり期間」において指導の重点を明確にした取組を進める。
- ・ 家庭学習の補完教材として「ミライシード」等、ICT教材の有効活用を図る。

(2) 個に応じた学習支援

- ・ S S T（スクールサポートティーチャー）及び学校支援指導員を、3年生以上の算数習熟度別指導下位グループに週5時間程度配置し、D層E層の児童に対する個別の支援を充実させる。また、1年生は各クラス週3時間程度、2年生は各クラス2時間程度S S T、学校支援指導員を配置し、D層E層の学習支援に当たる。
- ・ 上記の支援についての記録を取り、各担任と支援者が連携することにより有効な手立てを共有する。
- ・ C層児童を対象にした「放課後すみだ塾」では、各学年の学力向上委員会を中心に適切な学習課題を選定して学習に取り組ませることで、基礎的基本的事項を定着させるとともに、学習意欲の向上を図る。

(3) 主体的に課題解決に取り組む「学び方」の定着

- ・ 校内研究のテーマを「児童の主体性の育成」として、「学力向上」「L I M」「特別活動」の3部会を構成し、児童を学習の主体とする授業研究等を通して授業改善を進める。
- ・ 児童にタブレット端末を、鉛筆やノート、教科書、辞書のような学習の「道具」として日常的に活用させ、学習意欲の向上を図り、他者との交流に主体的に関わるようにさせる。
- ・ タブレット端末の機能を、思考を整理し深める道具として活用させることで、課題解決のプロセスとしての児童の思考パターンの定着を図り、学習過程に見通しをもたせる。
- ・ 「家庭学習のすすめ」（家庭学習を進めるためのリーフレット）を作成し、児童が主体的に学習に取り組む習慣を身に付けさせる。

3 「令和5年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・ 標準スコア50.0未満の教科をなくし、52.0以上の教科を10/17以上とする。
- ・ 全学年、全教科の観点別全51項目のうち、全項目で目標値と全国平均正答率を超える。

- ・ 今年度は標準スコア50.0未満の教科は延べ17教科中1教科から3教科に増加した。次年度こそは全教科を50.0以上にしたい。また、国語科では、標準スコア52.0に満たない学年が減少している。理科では、標準スコア50.0を超えた学年が2学年あるので、国語と理科の対策を強化することで今年度以上の成果を上げたい。
- ・ 観点別の項目で目標値及び全国平均を超えたものは、昨年度は51観点中45観点であったが、今年度は51観点中38観点と減少した。国語の「知識・技能」及び理科を強化することで、全項目全国平均値及び目標値超えを達成したい。